



患者数が増加しています

風しん予防接種を 受けましょう

■問い合わせ 子ども未来課Tel 23-3222

2018年の夏頃から風しんの流行が首都圏からはじまり、報告数は増え続けています。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが控えており、訪日外国人旅行者数はさらに増えると思われます。海外では、風しんが流行している国が多く、風しんウィルスの国内への持ち込みはますます増えることが予想されます。

風しんってどんな病気？

感染者の唾液の飛まつなどによって、他の人にうつる感染症。風邪によく似ており、感染すると発熱や発疹、リンパ節の腫れなどが生じます。

風しんにかかってもほとんどの人は軽症のうちに治りますが、まれに高熱が続いたり急性脳炎などの合併症を生じたりして入院が必要になる場合があります。

最近の流行は 30歳代後半～50歳代前半

近年は子どもの予防接種がすすめられているため、最近の流行の中心は予防接種をしていない30歳代後半～50歳代前半の大人です。

また、妊娠中の女性が風しんに感染すると、おなかの赤ちゃんの目や耳、心臓に先天性の障がい（先天性風しん症候群）を引き起こすことがあります。おなかの赤ちゃんを守るには、周囲の人が予防接種を受け、感染を防ぐことが必要です。

風しんを予防するには

風しんウイルスは、感染力が強いことから、予防接種を受けて免疫をつけることが最も適切な予防方法です。まず、抗体検査を受け、風しんの抗体価が低い場合は予防接種を検討しましょう。

予防接種は1回の接種で95%の人が免疫をつけられます。2回行くと99%以上の効果が期待できます。

特に、先天性風しん症候群を防ぐ点から、次の人は積極的に抗体検査または予防接種を検討しましょう。

- ①妊娠を希望している人
- ②現在、妊娠している人の家族

妊娠歴のある人は妊婦健診で風しん抗体検査を実施しているため、過去の抗体検査結果を母子健康手帳で確認できます。妊娠していない時期に予防接種を行い、接種後2カ月程度は、妊娠を避けましょう。



麻しん・風しん定期予防接種

子ども

第1期 1歳～2歳未満で1回

第2期 小学校就学前の1年間（幼稚園、保育所等の最年長児）で1回

平成30年度は、平成24年4月2日～平成25年4月1日生まれの人が対象です。3月31日までに接種を受けてください。

予防接種の助成をしています

大人

市では、大人の風しん予防接種の費用の一部を助成しています。

助成を受けるには申請が必要です。申請には医療機関で発行された領収書等の添付書類が必要です。

助成の対象となるのは市内に住所を有し、次の事項のいずれかに該当する人です。

- ①現在妊娠している女性の夫
- ②18歳以上50歳未満の妊娠を希望する女性とその夫

助成期間 3月31日まで

助成回数 1人につき1回まで

助成額 接種にかかった費用のうち4,000円まで
詳しくは、子ども未来課までお問い合わせください。